

ひろしま・ブルガリア協会

会長 今村 功 様

昨晩は私共のために歓送会を開催していただき、誠にありがとうございました。

非常に和やかな雰囲気の中で、会長をはじめ多くの方々から暖かい送別の言葉をいただいたことに対しまして、心より感謝しております。本当にたのしく過ごさせていただきました。

お礼の挨拶中でも申しましたように、私は昭和 44 年に立命館大学工学部数学物理学科（物理専攻）を卒業し、ちょっとしたきっかけから金沢大学薬学部に進学し、27 年間勤務しました。その後、縁があって平成 8 年に広島大学原爆放射線医科学研究所（原医研）に招かれ、約 16 年間、この温暖な瀬戸内海沿岸の平和都市・広島で過ごしました（人生は、必然から起因？する偶然的な人と人との繋がりによって成り立っている、生かされているというのが実感です）。

以来、放射線生物学という、一般の方々にとって程遠い分野の基礎研究者及び大学教育者として長年過ごしてきましたが、広島では放射線障害をはじめとする被ばく医療関係の教育・研究にも関わることになり、最終的には昨年発生しました世界レベルの原発事故対応ということで被災者支援活動や国内外の関係機関との連携活動にも参加するようになりました（具体的には、海外機関の研究者交流や一般者向けの講演などです）。

2 年前に定年退職しましたが、新設講座（国際緊急被ばく医療研究分野）を立ち上げるため、さらに一年前に起きた福島原発事故に研究所として対処するため、引き続き特任教授として勤務してきました。いまは何とか講座は軌道に乗り、一応、福島原発の方も緊急被ばく医療より低線量放射線による健康影響といった長期的な対応策にシフトしてきましたので、ようやく時間的な余裕がでてきました。

現在もなお、多くの方々から「そのまま田舎にこもったらあかん・・・」、「広島に残って仕事をしては・・・」との有難い要請を受けていますが、地元の高등학교を卒業して以来 45 年間以上も近所・親戚に迷惑をかけてきましたので、先祖代々受け継いできた田畑や家及び親戚などとの付き合いを捨てきれない以上、ある程度元気なうちに郷里に帰るべき・・・というの私共の心境です。

このように、夫婦でひろしま・ブルガリア協会の各種行事に参加し、また 2 年前のブルガリア旅行や 2 度にわたる福岡・宗像市でのブルガリア・フェスティバルでのトドロフ大使夫妻との交流を介して、多くの貴重な経験をさせていただきました。これも、偶然（必然的に）、7 年ほど前に今村会長と「広島大学留学生交流会」でお会いし、この協会に参加するようになった縁があって初めて実現したことです。

研究者を中心とした仕事仲間とは全く違った、非常に暖かい個性豊かな協会員の皆様とお会いできたおかげで、広島生活を有意義で充実したものにさせることができました。

本当に心より感謝しております。ありがとうございました。

なお 4 月 1 日以降の郷里での住所は以下の通りです。

〒939-1345 富山県砺波市林 1222 番地

電話：0763-32-3492

E-mail : yftwins@gaea.ocn.ne.jp (ネット環境が変わっても継続する予定です)

また、名誉教授として継続的に広島大学のネットが使えるように手続きをしましたので、郷里からもこのメールアドレス (fmsuzuki@hiroshima-u.ac.jp) が使えるようになりました。

今は3月30日に引っ越しをするため、色々と雑務に追われております。

砺波は自然豊かな田舎 (散居村) ですが、高速道路 (北陸自動車道と東海北陸自動車道及び能越自動車道) の交差点にあり、交通の要所として住みやすく発展しつつある (人口増のチューリップ球根生産量日本一) まちです。

近くにお越しの節は、是非ともお寄りいただければ幸いです。この点も含めまして、皆様によりよくお伝えくださいますようお願い致します。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。